

令和6年度 西東京市立保谷小学校 校内研究

昨年度までの研究 主題 「自分ごととして課題を探究する児童の育成」

成果

- ・子どもたちに必要感、目的意識をもたせ、体験活動を充実させることで、課題を自分事にすることができた。
- ・相手意識を明確にもたせ、自分の身の回りのことと結びつけて考えさせることができた。
- ・決定権を子どもに委ねた授業づくりをすることができた

課題

- ・課題の探究・解決に向かうような問いかけの仕方。
- ・情報整理、分析のときの教師の役割。
- ・自分事として考えられるような課題設定の難しさ。
- ・児童主導でありながら、しっかりと学習内容もおさえる方法。
- ・タブレットの有用的な活用方法。
- ・児童が自分事として考える発問。
- ・答えのない問いに対して答えられない。
- ・子供発信で活動を展開していく反面、地域のことでやる制限があったり、年間の計画をあらかじめたてなくてはいけなかったり、総合の計画の難しさ。
- ・教科を自由にした反面、主題について深めることが難しかった。(講師の先生も毎回変わるため)

児童の実態

○算数における児童の課題を教えてください。

- ・答えが出て満足してしまう。なぜ?どうして?と深めようとしない。例:「分数のわり算って分母、分子を逆にしておかけばいいらしいよ。」「へー、そうなんだ。」
- ・一つのことを深く考えようとしない。結論をすぐ求める。
- ・授業の受け方が受動的。能動的(前向き)じゃない。
- ・壁にぶつかるとうすぐにあきらめてしまう。考える前に、「無理」「分かんない」「めんどくさい」と言う。

〈考えられる原因〉

- ・既習事項が入っていない。できない、分らない。
- ・自己理解が不十分。(できないことを認められない、気付いていない)
- ・成功体験が乏しい。算数の楽しさを実感できていない。

<研究主題>

よりよいものを求めて自分の考えを吟味することができる児童の育成

～ 数学的な見方・考え方を働かせる算数の授業づくりを通して ～

○研究の手だて

- ・児童自ら問いを見付ける、もつことができる問題提示
- ・問題に対して主体的に関わることができる児童。
- ・算数の楽しさを実感することができる児童。
- ・活とのつながりを見付けることができる児童。
- ・自分の考えと友達の考えをつなげていくことができる児童。
- ・算数で何かを解決したくなる、話したくなる(表現したくなる)児童。